

教育委員長 年頭所感



教育委員長 松本 寛

明けましておめでとうございます。皆さまには、ご健勝で清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、東日本大震災、原発事故、放射能汚染と重すぎる出来事からの復興への取組が続いており、難問が依然として山積しています。大災害に加え、国際社会においても日本を取り巻く状況は厳しい状況にあります。また、深刻ないじめ問題を契機に教育をめぐる、大きな議論が展開されました。一方、心が痛むことの多い中で、勇気づけられることもありました。東日本大震災の被災地では、被災者が互いに助け合い復興に立ち上がり、それを支援する多くの善意が寄せられております。ロンドンオリンピックやパラリンピックでは、日本チームの選手、スタッフが一丸となって頑張りました。そして、山中伸弥教授が、IPS細胞の研究においてノー

ベル医学生理学賞を受賞しました。絆や信頼、チーム力がいかに大切かを改めて感じた年でありました。

今年、日本人一人ひとりが、持てる力を発揮し、それを束ねて輝かしい未来に向かって、力強く前進する年になるよう期待をしています。

さて、教育の役割を達成するためには、長期的な視点に立って、見通しを立て積極的に力を注いでいかなくてはなりません。そして、教育は一朝一夕で結果が出るものではありませんが、点検評価をしながら改善をしていくことが大切です。

葛飾区教育委員会では、平成15年11月に「教育振興ビジョン」を策定し、教育の充実に向けた取組を進めてきた結果、着実に成果が表れています。しかし、すでに9年が経過したことから、成果と課題を検証し、教育を取り巻く状況に鑑みて、これからの目指すべき目標や方向性を明らかにしていくことが求められています。そのため、現行の「教育振興ビジョン(第二次)」と「生涯学習振興ビジョン」を検証し一つにまとめて、新たに「葛飾区教育振興基本計画」を策定するため、昨年9月に検討委員会を設置し、検討を始めています。

また、葛飾区は、今年度「葛飾区基本計画」の策定を終え、25年度から実施していきます。教育委員会では、その基本計画に掲げられた政策の中の「学校教育」、「地域教育」、「区民

学習」、「スポーツ」の4政策において、施策や事業を展開してまいります。例えば、「学校教育」では、「葛飾学力伸び伸びプラン」などの取組によって、子どもの学力向上を図り、「子ども体力向上プロジェクト」によって、児童生徒の体力の向上を推進してまいります。

今年4月に、新宿六丁目に東京理科大学葛飾キャンパスがオープンいたします。教育委員会では、大学の有する専門性の高い施設・設備や人材と連携し、区民と学生との地域交流をはじめ、児童・生徒の学習活動や区民の生涯学習など、教育活動の向上及び生涯学習の振興を図ってまいります。中でも学内に設置される「葛飾区科学教育センター」で展開される事業は、理科好きの子どもの増加や本区の理科教育のレベルアップにつながるものと大きな期待をしています。

本年も区民の皆様のご理解とご協力を頂きながら全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

24年11月24日付で、松本寛氏が教育委員長に就任し、遠藤勝男氏が教育委員長職務代理者に指定されました。

また、遠藤勝男氏の任期満了に伴い、24年12月24日付で、杉浦容子氏が教育委員長に任命され、同25日付で教育委員長職務代理者に指定されました。



教育長 塩澤 雄一



教育委員 竹高 京子



教育委員 面田 博子



教育委員 佐藤 昭



教育委員長職務代理者 杉浦 容子